

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月24日

【評価実施概要】

事業所番号	4571700667		
法人名	特定非営利活動法人 海ちゃんの家		
事業所名	グループホーム海ちゃんの家たかざき		
所在地	宮崎県都城市高崎前田2505番地 (電話)		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年11月19日	評価確定日	平成20年12月24日

【情報提供票より】（平成20年8月29日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成 6年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤10人, 非常勤4人, 常勤換算6.12人	

（2）建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有 (30,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	250 円	おやつ 500/月 円
	または1日当たり 円		

（4）利用者の概要（平成20年8月29日現在）

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護1	0	要介護2	1
要介護3	3	要介護4	2
要介護5	3	要支援2	0
年齢	平均 83.7 歳	最低 75 歳	最高 91 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	園田病院、教山医院、横内科、下村歯科 高崎園、さわやかセンター、なでしこ
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは田園に囲まれ、広い敷地に畑、芝の広場、屋外のテーブル、椅子があり、利用者や職員はもちろん地域の人達も気ままにくつろげる場になっている。室内は、いろいろの置かれた共用空間を取り囲む形で居室が設けられ、その居室もサンデッキで行き来でき全てが開放的になっている。ホームの理念どおり利用者と職員が家族として生活しており、職員が同伴する幼児や障がい者を、利用者が自然な形で受け入れている。利用者に常に寄り添い、ごく自然に接している職員の姿が印象的であった。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の改善課題の①職員研修時の復命資料②利用者の呼称③声かけのトーン④共用空間づくりについては、職員間で話し合いを重ね改善されていた。介護計画の見直しについては、なされているが介護計画書を作成するまでには至っていなかった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価は、全職員で話し合いをして作成している。また、その段階で気づいたことや疑問点は勉強会等で話し合い改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	2か月に1回、運営推進協議会が地域の人や家族会を中心に開催されている。ホームの日々の取り組みや問題点を報告し、委員からも活発な質問や意見が出されている。出された意見等については改善に向けて取り組んでいる。外部評価の際に推進委員の見学があり、外部評価の主旨や意義について説明し理解をいただいた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	定期的に「海ちゃんの家便り」を発行し、また、各担当者が利用者ごとに写真とコメントであふれる“○○さんだより”を各家族あてに送っている。家族会の組織もあり来訪や電話での際、声かけしている。また、苦情や要望を聞き出せる、受け止められる体制作り努力している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	地域の一員として、地域の清掃や祭り等の行事に参加している。毎日の散歩の際声かけし立ち話することも増え、お隣さんとしての付き合いも始まっている。近隣の保育園や学校に出かけたり、ボランティア等で来訪があったりと交流が積極的に行われている。また、法人のボランティア活動として地域の祭りでバザーをする等、積極的に交流に取り組んでいる。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私が私らしく生きるために利用者と職員が家族として生活すること」という法人の理念を作り上げている。また、全職員が地域の中で、楽しい笑顔の多い、そしてわがまま全てを受け入れるケアを行うことを認識している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には、理念についてよく話し合い理解を促している。勉強会の折には必ず理念に触れ再確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として地区の清掃活動や祭り等の行事に参加し、散歩の際もあいさつや声かけするなどお隣さんとしての付き合いが始まっている。近隣の学校や保育園を訪問したり、招いたりと積極的に交流が行われている。法人のボランティア活動として地域の祭りのバザーに出品する等の取り組みもしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員の話し合いを基に作成している。また、その段階で出た問題点、疑問点については話し合いを進め改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を地域の人や家族会を中心に実施されている。ホームから日々の取り組みや問題点等の状況報告をし、委員から具体的な意見や質問が出されている。それに対して改善に向けて取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者と連携ができており、報告、相談等細やかに行っている。また、介護相談員の訪問が定期的にあり利用者の生の要望等を表せる機会になっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な「海ちゃんの家だより」のほか、各家族へ一人ひとりの日々の生活の様子を写真やコメントで“〇〇さんだより”として送付している。また、来訪時や電話で状況を伝えている。金銭管理は請求書や領収書の控え、認め印等適切な処理がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口は、掲示や重要事項説明書で伝えている。来訪や電話、家族会のレクリエーションの際に声かけして、表せる機会づくりをしている。苦情の受け止めについて職員全体でできるよう勉強会等で取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	海ちゃんの家だよりで家族等に知らせ来訪時に紹介、あいさつしている。共用空間に職員の写真とコメントが掲示されており、利用者が新しい職員にはやくなじめるよう配慮されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の受講については、法人が積極的に支援している。研修後は復命書で復命し、勉強会で報告して内容を共有している。また、資料や関係書籍は事務室に整備され、職員がいつでも研さんできる体制がある。時間外に実務の研修を職員が自主的に行う等の取り組みもある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会のブロック研修会に積極的に参加し情報交換等を行っている。また、年1回は全職員が研修旅行として他のホームや施設を訪問する機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前には、病院や家庭を訪問しなじみの関係をつくったり、体験入居やデイサービスでの受け入れをして、徐々になじめるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側という意識は無く、双方が家族としてあたりまえのこととして支えあっている。職員が同伴する幼児や障がいしゃ者に、自然と利用者が声かけして手助けする場面も多々あり、互いに支え合う関係になっている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしや家族からの情報把握に努めている。また、全職員でセンター方式シートの勉強に取り組んでおり、さらに思いや意向を明確に把握できるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日々のかかわりの中で意向を確認し、担当の職員の意見を中心に職員で話し合っ計画を作成している。作成した計画は家族へ来訪時や郵送で説明し了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に沿ったケアが実施され、毎月プランの評価もされているが、介護計画書の見直しがされていない。	○	介護計画が6か月から2年の周期で更新されている。実質的にされているチェックや評価に基づいて定期的に介護計画を見直し計画を作成されることを望みたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や送迎等は要望に応じ柔軟な支援がされている。ボランティアや実習生の受け入れも積極的に行い、法人としてボランティア活動を実践することで、地域の福祉の拠点となりつつある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望する掛かりつけ医との連携がとれている。また、協力医が月1回訪問しており、利用者の状況をスタッフの報告を基に把握する連携ができており、適切な医療を受けられる体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの理念で本人や家族の希望により看取りの支援をしている。本人の状況を見て、重度化に伴う意思を確認し、契約書を作成している。対応については、職員と方針を共有しており医療機関の協力体制もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげない誘導や声かけが行われている。記録等は個人情報の取り扱いも適切である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、読書、野菜の収穫、ドライブ等、一人ひとりが自分のペースできまな生活を送っており、それを職員が支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食台をふいたり、茶わんを片づけたりと利用者ができることを手伝い、職員と一緒に食事の準備をしている。。職員も利用者と一緒に食卓を囲み楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるよう支援している。時間帯も希望に応じて、より楽しめるようハーブや薬草浴を提供している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜の収穫や散歩中の草花の収集等、一人ひとりが生活の中で役割が持てるよう支援している。月1回アロママッサージを楽しんだり、ドライブして気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日ドライブを楽しみ、買い物も楽しんでいる。毎日の散歩が日課の利用者もいる。年1回は家族会とのレクリエーションも計画されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けないケアに取り組んでいる。利用者の外出の習慣等を職員が把握しており、目配り気配りで利用者が自由に過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルが作成してあり、年2回の総合訓練、随時の避難訓練を実施している。また、地域の協力を得られる体制もできている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は毎日記録されている。利用者の状況に応じた食事を提供し、医師と相談のうえ、補助食品も利用している。年1回栄養士に献立のチェックを依頼し、バランス等適切に提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はワンホールになっており、職員の目が届きやすい構造になっている。いろりの置かれたテーブルがあったり、ソファーには利用者それぞれの毛布が置かれ、お気に入りの場所でそれぞれがゆっくりくつろげるようになってる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一人ひとりが好みの家具、使っていた生活用品を持ち込み、居心地よい部屋になっている。各居室から自由にサンデッキに行けるようになっており、ひなたぼっこ等自由に過ごしている。		

※  は、重点項目。